R4 年度

12 月　子育て相談ご報告

講話『幼少期からできる性教育～我が子にいのちのたいせつさを伝える～』（谷本好子助産師）

「幼少期からはじめる性教育」について谷本助産師より貴重なお話をいただきました。

【我が子への幼少期からの性教育のポイント】～谷本助産師の講話から引用・編集～

１０歳頃までの性教育は大切

3 歳頃から 10 歳頃までは「おしっこ」や「うんち」、「ちんちん」等下ネタが大好きな時期であると同時に、親が話すことを素直に聞いてくれる時期でもある。この時期を活用して、適切に性のことを伝えられたら、うまく吸収し、歪んだ知識を持たずに「命につながる大切なこと」として、自尊心の芽とともに育つことにつながる。

我が子に伝えるときのポイント

【いつ？どうやって？】

弟や妹がうまれるときなど、我が子から、「赤ちゃんはどうやってお腹にきたの？」「赤ちゃんはどうやってうまれるの？」等、我が子から質問が来たときがチャンス！！　思春期になると、かえってお子さんの方が恥ずかしがって、伝えたいことを伝えづらくなることもある。絵本などを見ながら「こうして大切なあなたの命ができたのよ」など、命の大切さ、お子さん自身の存在の大切さと共に伝えられると良い。

たくさんの書籍もご紹介いただきました★

【伝える環境づくり】

性教育に関する絵本を自然に側に置いておくだけで、子どもが興味を示して絵本を読んだ時に伝えられる機会となったり、子どもが読んでほしいと言ってくれた時に一緒に読むなどして伝えられると良い。大体、小学校 5 年頃までに伝えられるとスムーズに入りやすかったりもする。

【プライベートゾーンを伝える】

プライベートゾーンについて、幼少期から「清潔を保つことの大切さ」や「ばい菌を予防するための洗い方」について伝えておき、自分で洗い、清潔を保てるようにしておくことも大切。プライベートゾーンは、大切な身体の一部で、同じ顔の人がいないのと同じように、色も形も一人一人違っている。誰かに触らせたり比べたりするものではない。

性教育とは『あなたは大切な存在』を伝えられるきっかけの一つなのですね。

佐川町健康福祉課
電話番号：22-7705
担当：山本、小松